

事例 1

「園だよりやブログ」を使い分けて子どもの姿を伝え、安心感をはぐくむ

バオバブ保育園ちいさな家(東京都・私立)

第一子が多く、子育てに不慣れた保護者が多い「バオバブ保育園ちいさな家」。園だよりやブログなどを目的に応じて使い分け、子どもの姿や保育の様子を効果的に伝えることで、保護者との信頼関係の構築につなげています。

園生活を見えやすくする情報を発信し、保護者の不安を軽減

保護者が知りたい情報の提供が信頼関係をはぐくむ

0～2歳児を対象とするバオバブ保育園ちいさな家は、園だよりやブログなどを使い分けて保護者が知りたい情報の提供を心がけ、信頼関係の構築に努めています。園長の遠山洋一先生は次のように説明します。

「一般に園からの情報提供は、『保育や子育てはこうあるべき』『園はこう考えている』といった内容が多くなりがちです。しかし、保護者が何より知りたいのは、日中の子ども

の姿や保育者がどのような気持ちで子どもに接しているかなどです。それらを伝えることが、信頼関係の出発点と考えています」

園児は第一子が多く、子どもを預けることに不安を抱く保護者が少なくありません。特に送迎時に泣く子どもの保護者は、一日中、寂しがつているのではと心配する傾向があるといいます。

また園が当たり前と考えがちなのが理解されていないケースも多いため、ていねいな情報提供が必要だといいます。そこで、園だよりやブログ、保育参加などを目的に



園長 遠山洋一先生

じて使い分け、保護者の不安の軽減に努めているのが、この園の特徴です。

保育日誌から引用したエピソードで保育の思いを伝える

中心となるのは、月1回、同じ



園だよりの構成は、その月の行事の予定、歌や体操の紹介、さらに園長のエッセイ、保育者の声や保護者からの一言など盛りだくさん。右は、「列車ごっこ」について書かれた遠山先生のエッセイ。

「二階だての列車」
《廊下に出て箱を出すと、とにかく、その箱をめぐって、るいくん、ともきくん、にこちゃん、ろくちゃん、みうちゃん、かのんちゃん、みうちゃん、レンガのおうち壁がこわれて、あばら屋状態。》
そこに、ともきくんが、箱をむりやりどんとくっつけて列車ができる。るいくんは、一人で箱を二つ重ねて、二段目の箱に入る。
別々でそんなことをやっていたが、別々をやってもお互いの様子を見ていたのか、二段重ねがぼつぼつ広がる。かのんちゃん、みうちゃんの発想も手伝って、二段重ねの箱がとなり、列車になった。
二階だて列車にみんなのりこんで、いつてきまーす！とおとなに手をふる。どこにいくの？とときくと、「ソウ見にくく」「キリン見にくく」いつもだいたい行き先はどうぶつえんが定番だが、イメージを一掃にしておくことにしよう。東の間のほんわかした時間だった。(記・川名)

一人一人が自分のイメージで行動していて、それがいつの間にか一つの遊びになっていく！自分の当初の思いとちがっても落ち込まず、柔軟に遊びを成立させて行くたくましさは、たいしたものだなあと感じ入った次第です。もう一つ、こやぎ組の日誌から。

法人が近隣で運営する園と合同で発行する8ページ構成の園だよりです。行事紹介では子どもの印象的な発言や姿などを詳しく伝えてほかに、保育者が保育への思いや日常生活で感じたことなどを書いてそれぞれの人となりを伝えるコーナーもあります。さらに、遠山先生のスペースを2ページ設けています。

遠山先生のスペースでは、保育者が記録する保育日誌をもとに、事前に保護者の了承を得たうえで子どもの実名も出し、エピソード主体のエッセイで子どもの様子を伝えています。

「保育日誌には、できごとや子どもの姿とともに、保育者の感想や気持ちを記入しています。現場の保育者のほうが子どもの実態をよく把握していますから保育日誌を参照し、子どものよさや成長を象徴するエピソードを選んで、解説や感想とともにお伝えしています。できるだけ実名を出すのは、そのほうが具体的に情景が伝わりやすいからです」(遠山先生)

毎月、熱心に読んでいる保護者も多く、子どもの発達についての理解などにもつながっています。

ブログと保育参加を活用し園生活をより見えやすく

一方、パソコンや携帯電話で閲覧できるブログは、写真を中心にリアルタイムの情報提供を心がけています。何気ない遊びのワンシーンを掲載しており、「子どもが楽しそうに遊ぶ姿を見て安心する」と話す保護者もいるそうです。毎日更新して

いきたいところですが、現在は週1、2回の更新になっていると言います。

さらに普通の日の午前中、いつでも保育参加を受け付けています。子どもと遊んだり、給食を食べたり、園生活を共にすることで園に対する安心感や信頼感はより深まるといいます。

保育者はまず保護者を理解する努力を

保育者の中には、子育ての未経験者も少なからずいます。そこで遠山先生は保育者に対し、まずは保護者の話をじっくりと聞いて、仕事と子育てを両立させる大変さを理解する努力をするようにと、つねづね話しています。そうすることで保護者の不安や心配の原因がよく把握できて、どうすればそれらを軽減させ



写真を中心に子どもの姿を伝える情報を当日中に発信しています。
ブログURL <http://chiisanaie.sblo.jp/>

られるだろうかと考えるようになります。その気持ちが、保護者との間に信頼関係をはぐくむ情報提供を支えているのです。

園の工夫 4つのポイント 目的に応じて発信の方法を使いわけ

- 1 園だより……活字を通して、子どもの姿や成長の様子、保育者の思いや考えなどをじっくりと伝える。
- 2 ブログ……写真を中心に子どもたちの園生活の様子を伝える。最近の状況を発信できるため、保護者は安心感を抱きやすい。
- 3 保育参加……実際に保育に参加して見てもらうことで、子どもの成長や保育の考え方などを感じ取ってもらう。
- 4 クラスだより……クラスごとに案内やお願いごとなどを伝える。クラスの様子と個々の子どもの様子を発信する役割もある。

バオバブ保育園ちいさな家
◎2001年、京王線聖蹟桜ヶ丘駅前に開設。行事などは、同じ社会福祉法人が近隣で運営する「バオバブ保育園」(0～5歳児)と一緒に活動し、3歳になった子どもは「バオバブ保育園」に移ります。
園長 遠山洋一先生
所在地 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮3丁目1番16号
園児数 31名(0～2歳児)

